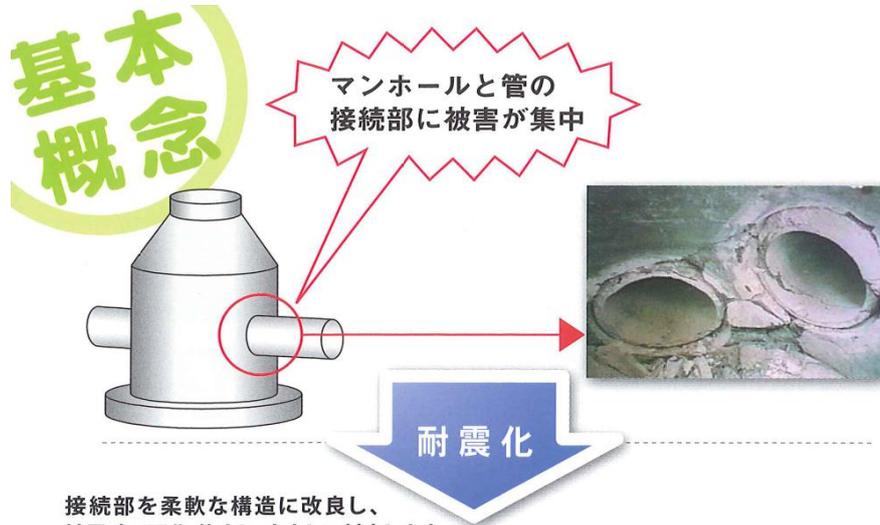
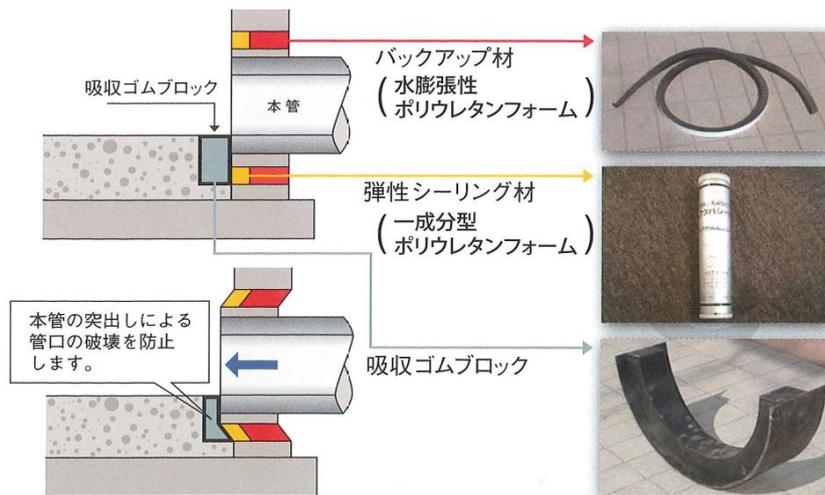


既設人孔耐震化工法 マンホールと管接続部の耐震化

専用の切削機により、マンホールの壁を管外周に沿って切削することで、マンホールと管の縁を切り、切削した溝には土砂の流入を防止するバックアップ材、地下水の流入を防止するシーリング材を充填し、接続部の耐震化を行うものです。
また、インバート部には吸収ゴムブロックを設置することで、管がインバートに衝突し管口が破損することを防止します。



接続部を柔軟な構造に改良し、地震時の屈曲・拔出し・突出しに対応します。



耐震性能	・既設管及び更生管(複合管)	切削溝幅:15mm
	拔出し・突出し	40mm、屈曲角1.0°
	・更生管(自立管)	切削溝幅:25mm
	拔出し	100mm、屈曲角5.0° 突出し 40mm、屈曲角1.0°

工法の特長

- ◇ 既設マンホールと管の接合部を非開削により耐震化します
- ◇ マンホールの蓋は内径600mm以上で施工が可能です
- ◇ 管内径700mmまでの施工が可能です
- ◇ レベル2地震動に対応し地震時の本管の屈曲、拔出し・突出しの変位に追従し下水の流下機能を確保します
- ◇ 周辺地盤や地下埋設物に対する影響がほとんどありません
- ◇ 地域住民の生活及び交通への影響が少ない工法です